

与六分～前橋南インターチェンジ線の利根川新橋の早期建設を

村田 安男 議員



関係する前橋市、高崎市と新橋建設促進協議会を設立し、群馬県に対して毎年要望を行ってきた。

Q 昭和63年に建設計画が決定されてから20年が経過したが、この計画は怎么样了か。

A 町長 玉村町にとって、産業振興、地域経済の発展が図られる重要な道路として考えている。

Q 町道に認定されている残された440mは、今後とも要望していきたい。

A 町長 渋滞解消、交通の安全性・利便性が見込まれるので、新橋建設促進協議会を通じ、

Q 前橋側の接続道路はすでに完成している。玉村側も、東毛広域幹線道路から高崎・伊勢崎線まで完成しており、残された未工区は、利根川の堤防までの440mとなっているが。

A 町長 県道昇格も視野に入れ、要望していきたい。

Q 食の安全性への関心が高まるなか、

A 町長 野菜を中心に、25%程度の対応となっている。

Q 地産地消における学校給食はどうか。

A 町長 消費者、生産者、学校給食関係者、農業委員などの関係者で構成された地産地消推進協議会において、安定的な供給と地域での消費拡大を検討中である。

Q 平成21年3月までには、推進計画を策定する予定である。

Q 主食の米についても、すでに高崎市などでは、地元で収穫した減農薬米を学校給食に取り入れている。

A 町長 消費者、生産者、学校給食関係者、農業委員などの関係者で構成された地産地消推進協議会において、安定的な供給と地域での消費拡大を検討中である。



与六分～前橋南IC線の前橋側接続道路

町民が夢に向かって進めるまちづくりを求む

三友 美恵子 議員



町長 厳しい経済状況である。再度事業全般を見直し、歳出の抑制、整理合理化を進める。しかし少子化対策、福祉、医療

Q 厳しい経済状況のなか、平成21年度予算をどのように考えているか。削減だけでなく、こんな時だからこそ、夢の持てる政策を打ち出すべきである。

A 町長 厳しい経済状況である。再度事業全般を見直し、歳出の抑制、整理合理化を進める。しかし少子化対策、福祉、医療

Q 今後町が生き残っていくためには、魅力あるまちづくりを進めていかなければならない。しっかりとした将来構想を持ち、町全体がひとつの夢に向かって進んでいく必要があると思うがどうか。

A 町長 平成23年度から始まる第5次玉村町総合計画を立てるにあたっては、皆さんと知恵を出し合って、夢のある玉村町

Q 「歴史文化基本構想」を策定し、旧例整使道の景観整備をしていく必要があると思うがどうか。

A 町長 東毛広域幹線道路が完成すると、国道354号は生活コミュニティ道路となる。景観整備のあり方を再考する時期が来た。今後まちづくりの基本方針を固め、歴史と文化を醸し出す住みよ

Q 創るため先頭に立ってやっていきたい。

A 町長 東毛広域幹線道路が完成すると、国道354号は生活コミュニティ道路となる。景観整備のあり方を再考する時期が来た。今後まちづくりの基本方針を固め、歴史と文化を醸し出す住みよ

Q と協働して取り組んでいく。

A 町長 東毛広域幹線道路が完成すると、国道354号は生活コミュニティ道路となる。景観整備のあり方を再考する時期が来た。今後まちづくりの基本方針を固め、歴史と文化を醸し出す住みよ

Q 情報の共有は、協働には欠かせないものである。今後の取り組みを聞きたい。

A 町長 住民に影響があると思われる計画の策定時には、広報誌・ホームページなどで情報の公開に努める。

Q 町長 住民に影響があると思われる計画の策定時には、広報誌・ホームページなどで情報の公開に努める。



品種(マリアカラス)

町の花(バラ)マリアカラス (画:鈴木邦浩氏)

町営住宅の早期改善と、ひとり親家庭支援を増やせ

備前島 久仁子 議員



町長 平成8年に設定された入居条件の月収20万円は、現在の全体世帯の36%にあたるため、申し込み可能世帯が増加した。そのため、平成21年

Q 町営住宅の入居待機者は、5年前が78人、現在が100人と増える一方だ。本当に困窮している人が、いつ入居できるのか。

A 町長 平成8年に設定された入居条件の月収20万円は、現在の全体世帯の36%にあたるため、申し込み可能世帯が増加した。そのため、平成21年

Q 町営住宅が、町全体で242戸だけで

Q 町長 入居待機者が多い3団地について、抽選方法を今後検討したい。

Q 町長 入居待機者が多い3団地について、抽選方法を今後検討したい。

Q 町長 祝日や時間外の保育に関しては、民間施設を利用できるように情報提示したい。

Q 町長 祝日や時間外の保育に関しては、民間施設を利用できるように情報提示したい。



入居待機者が多い八幡第二団地

「玉村町都市計画マスタープラン」を抜本的に見直し 老朽化した町営住宅は早急に建て替えよ

町田 むねひろ 議員



玉村町の開発は、国道354号や高崎・伊勢崎線沿いからスマートインターチェンジ周辺や東毛広域幹線道路沿いにシフトすることにな

Q スマートインターチェンジを含む閑越自動車道以西の東毛広域幹線道路は平成23年度末までに、それ以东は平成27年度末までに完成する予定である。これらの整備に伴い、玉村町の開発は、国道354号や高崎・伊勢崎線沿いからスマートインターチェンジ周辺や東毛広域幹線道路沿いにシフトすることにな

Q 福島団地や与八団地などの町営住宅は、築40年ほど経っており、老朽化している。これらの住宅は、震度5か6の地震で倒壊するおそれがある。倒壊した住宅の下敷きにな

A 町長 次期玉村町総合計画とあわせ、「玉村町都市計画マスタープラン」を見直す。

Q 町長 責任は私がとる。

A 町長 そのようなことは起こらないと考えている。

Q 町長 町田議員の言われるようにするのも一つの方法かなと思う。

A 町長 町田議員の言われるようにするのも一つの方法かなと思う。



老朽化した町営住宅（福島団地）